



◆風しんが急増しています！

昨年、風しんに感染した方が、過去5年間で最も多い人数となりました。今年3月末時点で、既に昨年の感染数を上回り、最も早いペースで増えています。

患者の7割以上は男性で、うち20代〜40代が8割を占めました。今年も同様の傾向ですが、特に首都圏での感染が多く、他の都市でも増加傾向にあります。

◆なぜ風しんは男性が多い？

現在20〜40代の男性は、子どもの時に風しんの予防接種を受ける機会がなかった世代です。接種していても風しんの免疫が低下していたり、2回の接種が基準なのに1回しか接種していない人もいます。1回しか接種していないと、免疫が十分ではない場合があります。

◆風しんについて

風しんは、風しんウイルスによ

る感染症です。季節的には春から初夏にかけて最も多く発生します。症状は、発熱、発疹、リンパ節腫脹が特徴です。また、大人がかかると関節炎など症状が重く、一週間以上休まなくてはいけない場合もあります。まれに急性脳症などの重傷の合併症が起こる可能性があります。

感染者のせきやくしゃみ、手についたウイルスから感染し、感染力はインフルエンザの5倍と言われています。症状が出る前から感染したことに気付かず、他の人にうつしてしまうこともあります。特異的な治療法はなく、症状を和らげる対症療法のみです。そのため、風しんを予防するためには、ワクチンの予防接種が有効となります。

◆妊娠中の女性は要注意！

風しんに免疫のない妊婦が風しんに感染すると、赤ちゃんに難聴

や心臓病、白内障などの障害（先天性風しん症候群）が起こる可能性があります。

昨年の流行の影響で、平成24年10月から平成25年3月末までに、8人の先天性風しん症候群の患者がいました。

妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、風しんに免疫のない妊婦の方は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えるようにしてください。

◆妊娠前からの風しん予防が大切です！

前述したとおり、妊娠中の女性は予防接種を受けられないため、妊娠前からの風しん予防が大切です。男性に限らず、風しんの免疫を持たない女性もいる可能性があります。そのため、40歳代くらいまでの女性は、風しんワクチンを接種しておく、妊娠したときに安心です。まずは、風しんの予防接種を受けているかご自身の母子手帳でご確認することをお勧めします。

また、風しんは男性の感染が多く、妊婦のパートナーである夫や、

ご家族の方から妊婦へ感染してしまう可能性もあります。そのため、妊娠を考えている夫婦やその周りの方も、風しんに感染しないように予防することが大切です。

◆風しんの予防接種について

風しんの予防接種は、現在麻しんと混合で、子どもの定期予防接種となつていきます。1歳児及び、小学校入学前1年間の幼児は、接種しなければなりません。

大人の方は、任意の予防接種となりますが、受けることが可能です。

また、現在風しんワクチンの在庫がなく、風しんワクチン単体の予防接種は受けられませんが、麻しん風しん混合のワクチンは十分な在庫がありますので、予防接種が可能です。麻しんも予防すべき感染症の一つであり、同時に予防ができるため、混合ワクチンの接種をお勧めします。

任意でワクチンの接種を希望される方は、希望する医療機関へお問い合わせの上、接種をお願いします。

ふれあい健康センター保健師